

# V 校内研究

## 1 今年度の研究

### (1) 研究主題

「自分のことばで考えを伝えることができる生徒の育成」  
～ 聴く力を土台とした、みんなが話せる授業づくりを目指して ～

### (2) 主題設定の理由

「学び合い」の研究を始めて6年目となる。北辰オリジナル授業デザインの「①つかむ、自分で考える → ②伝える → ③深める → ④まとめる・振り返る」のうち、昨年度は「②伝える」→「④まとめる・振り返る」の過程に重点を置くことで、生徒たちがより充実した学び合いができることと、理由と根拠をもって説明する力を付けることを目的として取り組んだ。その結果、授業では、生徒に考えさせる工夫が見られるようになり、指導力が向上し、生徒は表現力や発言力が身に付いてきた。

次の課題として、学力の定着と生徒の主体的に学ぶ気持ちの向上がある。学力を定着させていくためには、生徒にどれだけ自分の言葉で話をさせられるかが大切になる。そのためには、授業の中で生徒が自分で考えていくことが必要になる。教師が授業の中で考えるポイントや手立てをしっかりと準備して授業を行い、交流する目的を明確にし、共通した視点で考えさせる中で、それぞれの生徒がどこまで考えることができたかを自分の言葉で説明する。それをまわりの生徒がしっかりと聴き、認めていくことで、さらに自分で考えようという気持ちを高めていきたいと考えている。

今年度は、①と②に重点を置き、生徒が自分のことばで考えを伝える場面を増やすことで、学力向上につなげていく。

### (3) 目指す生徒の姿

- ・自分の考え（やり方）をもてる生徒
- ・自分の考え（やり方）を発信できる生徒
- ・友達の考え（やり方）を聴いて、自分の考え（やり方）を変化させられる生徒
- ・教科の見方・考え方に対する理由や根拠をもち、自分の言葉（やり方）で説明（実技）できる生徒

### (4) 研究の方針

「目指す生徒の姿」をいつも描きながら、教科部会、学年会、若手教員早期育成プログラム、各分掌等の連携を密にして取り組む。特に、課題に対して一定の立場や考えをもって、人の話を自分の考えと比較しながら聴く力をつけるという目標を全教員、生徒で共有して取り組んでいく。そして北辰オリジナル授業デザインを軸に授業力向上を目指す。また、研究授業や講師からの助言が受けられる機会を設け、現状理解、授業力向上につなげる。

### (5) 研究の内容

①ゴール（ねらいやつけたい力）を生徒と共有する。

生徒主体の授業では、生徒自身もゴール（ねらい・目指す姿）を明確にもつ必要がある。そのためには、ゴールを明確にした単元（題材）の構想・単元デザインを工夫し、それを生徒と共有していく。また、ゴールに向けての共通した見方・考え方を共有することで、見通しをもって授業に取り組めるようにする。【重点①】

②自分の考えを伝える（学び合う）場面の充実を図る。

一部の生徒だけが話すのではなく、みんなが話すグループディスカッションができるようになるために、交流する目的、共通した見方・考え方を明確に持たせる。また、全教員と生徒の間で、間違っていても自分の考えを伝えることが大切であり、教科の見方・考え方に対する理由や根拠をもち、自分の言葉（やり方）で説明（実技）できる生徒がいる。そんな話合いの土台として、人の話をしっかりと聴くことが必要になる。聴こうとすると、相手も伝えようとし、相手が伝えてくれると自分もさらに伝えたいと考えるようになる。また、伝えるための練習も必要である。練習をしないでいきなり話合いはできないので、ちょっとした確認や自分の考えを隣の人に報告させるなど、会話のキャッチボールの癖をつけるウォーミングアップの活動を入れていく必要がある。【重点②】

### (6) 研究の重点にかかる授業での共通実践

自己の学びや変容を自覚できるような授業の工夫と、場面（まとめ、ふり返り、適用問題、再実技など）を設定する。